



1日目、「SLばんえつ物語」 秋の澄み切った空気の中、SLの汽笛が遠くから聞こえてきた。子供の頃に見た蒸気機関車への憧れが、今、現実のものになるようにしていた。黒い煙を吐き出し、力強く線路を駆けるSLの姿は、まるで生きているようだった。車窓から見える紅葉の始まりの山々は、絵画のように美しかった。



東京駅、上越新幹線、トキ303号



SLばんえつ物語
ランドマーク



磐越西線、新津駅にて



津川駅停車中のSL



津川駅の駅弁風景



SLばんえつ物語の車輦



SLばんえつ物語
の機関室



SLばんえつ物語の停車時間

京成佐倉5:13→京成船橋5:45→船橋6:07→東京6:31→東京7:04発→上越新幹線「とき303号」指定席→新潟8:56着、新潟9:19発→信越線普通列車→新潟9:40着、10:03発→磐越西線快速「SLばんえつ物語」指定席→会津若松13:36着→会津若松観光(あかべえ)14:00~14:20鶴ヶ城15:20~15:55→会津若松16:20発→磐越西線普通列車→郡山17:36着→郡山休憩→郡山18:30発→東北新幹線「やまびこ154号」自由席→東京19:48着



あずさ3号松本行き(JR船橋駅にて)



松本城から北アルプス方面を見る

2日目、松本城 松本城では、ボランティアガイドさんの詳しくて面白いお話に聞き入っていた。天守からの眺めは息をのむほど素晴らしく、北アルプスの雄大な山々が目の前に広がっていた。特に、槍ヶ岳の鋭い峰は、自然の力強さを感じさせた。今回の旅は、私にとって忘れられない思い出となった。美しい風景、歴史ある建造物、そして温かい人との出会い。これらの体験は、日頃の疲れを癒し、心に安らぎを与えてくれた。また、次の旅へと向かう活力を与えてくれたように思う。



快晴の松本城



松本城全景



松本城の内部



松本城天守から北アルプスを望む

京成佐倉6:03(快速特急)→京成船橋6:28→船橋6:53発→中央線「あずさ3号」指定席→松本10:23着→松本観光(松本城)→松本13:06発「しなの9号」自由席→篠ノ井線→長野13:59着→長野電鉄、小布施、小布施観光小布施→長野17:10発→北陸新幹線「あさま628号」自由席→東京18:52着

ハローシニア佐倉

(公社)佐倉市シルバー人材センター



(公社)佐倉市シルバー人材センター
ホームページ

卓球同好会の紹介



卓球同好会の概要 平成15年に旧公民館で設立され、平成27年に志津市民プラザ内の新公民館に移転。メンバーは24名、年齢層は60代から80代で、男女比率は男性58%、女性42%です。コロナ禍で約4年活動休止していましたが、令和5年度より再開し、新メンバーも増えています。

活動内容 毎月日曜日に2~3回開催。初心者も基本から丁寧に教わり、健康維持や仲間作りを目的に楽しく練習に取り組んでいます。

今後の展望 新しいメンバーを常に募集しており、地域交流の場としての役割を広げていきたいと考えています。興味のある方はぜひご参加ください。



取材担当/広報委員長 辰巳 くにか

ボランティア清掃
小さなボランティア、
小さな繋がり、
小さな貢献



シルバー人材センターでは、会員が地域に貢献できる場として、月に一度のボランティア清掃を行っています。清掃活動は早朝から、佐倉市内の13か所で実施され、公園や歩道のゴミ拾いなどを通じて地域の環境美化に貢献しています。



清掃活動は、会員同士の交流を深める貴重な機会でもあり、活動後にはメンバー同士で達成感を共有する時間も設けられています。また、地域住民から時折感謝の言葉をかけられることがあり、その瞬間が活動の励みになっているとの声もあります。

「朝早く起きるのは少し億劫ですが、現地で仲間と挨拶を交わすと楽しい気持ちになります。帰る時には、自然と『また来月ね』と言ひ合うのが恒例です。」と、参加者からの声も寄せられています。

ボランティア清掃は地域貢献だけでなく、健康維持や会員同士の絆を深める場としても重要な活動です。今後も新しい参加者を迎え入れ、活動を続けていきたいと考えています。

ボランティア清掃 一緒にやりましょう 待ってます

取材担当/広報委員長 辰巳 くにか

蜂の巣駆除

仕事紹介

こんな仕事があるのを
ご存じでしたか



小柴さん

佐倉市シルバー人材センターでもあまり知られていない仕事の一つに蜂の巣駆除があります。市民の安全を守るために大活躍している隠れたヒーローです。今回は蜂の巣駆除21年の大ベテラン、小柴新一さん取材しました。

現在蜂の巣駆除には各地区に分かれ4人が従事しており、駆除件数は毎年200件を超えています。事務局の担当は生活支援の椎名さん、「市民の安全にかかわる仕事なので、駆除依頼には即座に対処しています。自分が休みの時は、電話を受けた者がだれでも取り次ぐ体制にしています」とのこと。取材には小柴さんを紹介頂きました。以下は小柴さんの投稿です。



駆除の様子

『蜂の巣駆除をはじめ今年で21年目です。61歳の時、当時はシルバーには蜂駆除班はなく、10歳年上の先輩に誘われ始めました。当初は道具もなく、雨合羽を着て薬剤もろくなものしかありませんでした。1~2年後テレビで知った事務局の方のアドバイスで、ノズルと防護服を購入しました。私は「蜂は何よりも優先する」をモットーにやってきました。市民の安全のため、駆除が難しくやりづらいところも何とか工夫し攻略してきました。

蜂に関しては知らないことばかりです。キイロスズメバチの巣は白・薄茶色・濃い茶色のきれいな縞模様です。巣作り専門の職人さんがいるのでしょうか？ それとも全員

みんなができるのでしょうか？ 巣の中にある卵を産みつける傘型の入れもの、外の丸形の巣もどうやって大きくしていくのでしょうか？ 天井裏や縁の下に巣を作ると必ず出入口から右へ50cmのところを作るのはなぜ？ 蜂と会話ができるほどに蜂のことが分ればよいのですが....

オオスズメバチは別格です。毒性が強く体も大きく、巣に近づいただけでバンバンとフードや手の甲に攻撃してきます。この時は恐怖を感じます。自分の巣と子供を守るため蜂は命がけです。

お盆が終わると新しい女王蜂が何匹も誕生します。巣も大きくなり蜂の数も多くなり、サッカーボールの大きさは当たり前、直径40~50センチ

になることもあります。9月~10月が最も凶暴で危険です。だから楽しいんです。困難なものほど達成感があります。

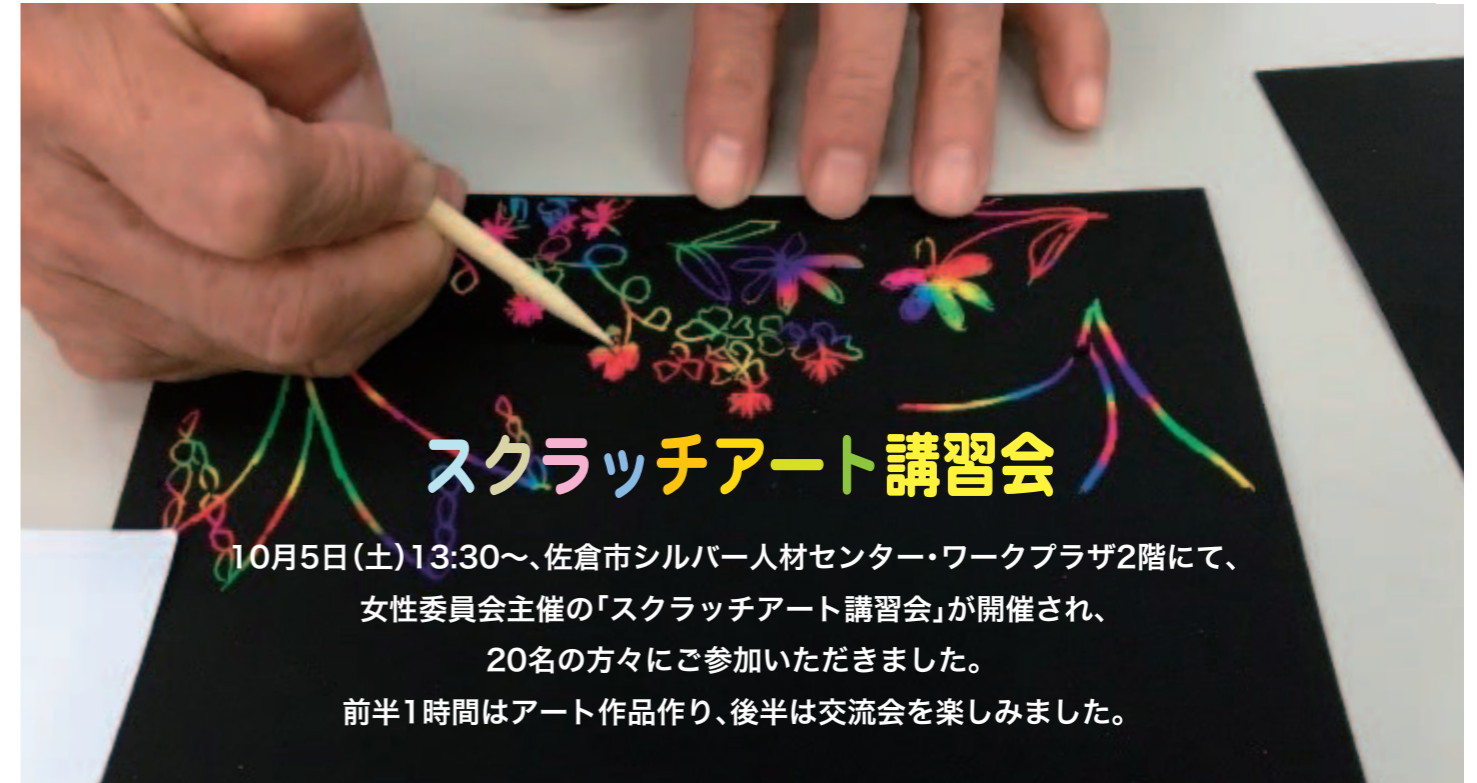
去年、手の甲を刺されました。台所のビニール手袋を着用しその上から皮手袋を着けていたのですが、その上からやられました。すぐその場を離れ、手袋を外して口で何度も何度も吸ってはペッペッと吐きました。オオスズメバチでした。巣を取ってあげるとお客様は大変喜んでくれます。こっちも嬉しくなります』



駆除した蜂の巣

駆除する相手でありながらも、蜂への愛情が感じられる小柴さんの投稿でした。これからも市民の安全のため、お元気でご活躍ください。

取材/小野寺 弘孝



スクラッチアート講習会

10月5日(土)13:30~、佐倉市シルバー人材センター・ワークプラザ2階にて、女性委員会主催の「スクラッチアート講習会」が開催され、20名の方々にご参加いただきました。前半1時間はアート作品作り、後半は交流会を楽しみました。

黒い表面を専用のペンで削ると、キラキラと輝く色彩が現れるアートです。集中力がアップするうえに、ストレス発散にもピッタリ！思いがけない美しい模様がどんどん生まれます。

冒頭、女性委員会・海老沢猛委員長の開催趣旨挨拶があり、続いて講師の辰巳くにか委員が「黒いキャンバスを削ると、そこにカラフルな世界が広がる！不思議で楽しいスクラッチアート、リラックスしながら素敵なアート作品を作りましょう♪スクラッチアートは大人でも子どもでも簡単に作れます。この講習会で持ち前の創造力を引きだして簡単なスクラッチアートを作ってみましょう。」の掛け声で、卓上に準備された「スクラッチアートペーパー」と「スクラッチペン」を使っての創作がスタートしました。

「今回のスクラッチアート講習会では、基本的な技法を学び、参加者それぞれが自由に創作を楽しみました。花を描くなどの簡単なデザインから始め、みんなで作品を作り上げる喜びを感じるひとときとなりました。」

そのまま額に入れて飾ったり、自分の名刺を印刷したり、クリスマスカードや年賀状にも使えます。皆さん絵心十二分、スクラッチアート創作を楽しまれました。

講習会で作成された作品は、YouTubeで見ることが出来ます。



取材担当/広報委員 奥野 太道

スクラッチアートとは？

